RI★WAC
Research Institute for Women and Careers
日本女子大学現代女性キャリア研究所

RIWAC 管理番号	RJO0007
調査タイトル	「家政経済学科 20 周年を記念する卒業生の会」アンケート
論文／雑誌名	「卒業生アンケート『家政経済学科 20 周年を記念する卒業生の会』アンケート結果報告『家政経済学論叢』第 20 号
著者	卒業生の会
掲載ページ	pp.75-96.
発行年	1984.04
出版社	日本女子大学家政経済学会

家政経済学論叢　第20号目次

巻頭の言葉

「論叢」第２０号によせて …… 広　田　寿　子 …… 1

論　　稿

生活問題の今日的所在 …… 松　尾　　均 …… 5

―〝最終講義〟の要旨を中心に―

私生活主義の今日的意味 …… 川　島　美　保 …… 21

女子賃金・雇用の日欧比較 …… 海　野　恵美子 …… 33

学生研究

トヨタ自動車と東洋工業の経営分析 …… 梅　沢　章　栄 …… 55

卒業生アンケート

「家政経済学科２０周年を記念する …… 卒 業 生 の 会 …… 75

卒業生の会」アンケート結果報告

1983年度卒業論文概要 …… 97

会員だより …… 141

1983年度家政経済学科だより …… 148

日本女子大学家政経済学会会則 …… 153

「家政経済学論叢」第10号～第20号 …… 157

卒業生アンケート

「家政経済学科20周年を記念する卒業生の会」アンケート結果報告

卒業生の会

1. 配偶者
2. 職　業
3. 地域活動
4. 習いごと
5. 自由記入欄への回答

昨年７月、家政経済学科卒業生に協力を依頼したアンケートの集計結果を報告いたします。

昭和５９年春をもって２０周年を迎えたこの学科は、既に1,000名を越える卒業生を輩出していますが、これまで卒業後の動向がほとんど掌握されていませんでした。また、学科で学んだ経験が、卒業後の生活や考え方にどのような影響を及ぼしているのかも、先生方、学生、卒業生の三者それぞれが関心を寄せる問題です。私たちは、これらを少しでも明らかにしていくことを目指し、その予備的段階として、卒業生の現在の状況を大まかにつかむことを意図して今回の調査を実施しました。

学科の協力を受け、卒業各回生２名ずつの世話人からなる「家政経済学科２０周年を記念する卒業生の会」が主体となって行ないましたが、御協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

調査対象は、５８年３月卒業（１６回生）までの1,076名のうち、住所の分かっている990名で、回答いただいたのは573名（ 57.8 %）です。

回生別回答数

卒業生(回生)	43(1)	44(2)	45(3)	46(4)	47(5)	48(6)	49(7)	50(8)	51(9)
回答数(名)	38	39	37	34	28	33	23	33	40
(%)	(77.5)	(69.6)	(56.0)	(60.7)	(65.1)	(68.7)	(51.1)	(49.2)	(65.5)

卒業生(回生)	52(10)	53(11)	54(12)	55(13)	56(14)	57(15)	58(16)	計
回答数(名)	49	30	43	36	35	36	39	573
(%)	(73.1)	(60.0)	(64.1)	(52.1)	(37.2)	(48.0)	(50.6)	(57.8)

集計結果は下記の5項目を柱にまとめてあります。

1. 配偶者
2. 職　業
   (1) 有業者について
   (2) 無業者について
3. 地域活動
4. 習いごと
5. 自由記入欄への回答

1. 配偶者

配偶者の有無についてきいたところ、58年7月の時点で、卒業後1・2年目である16・15回生では、回答者は全員配偶者無しであった。卒業後3年目の14回生では2割が有配偶者だが、4・5年目の13・12回生では6割、6年目の11回生では8割になる（表1・図1−1）。

表1　配偶者の有無と世帯構成

回生	配偶者 有	配偶者 無	配偶者 無回答	世帯構成 夫の年令 ～24才	25～29才	30～34才	35～39才	40～44才	45才以上	子供の数 0人	1人	2人	3人	4人以上	長子の年令 ～2才	3～5才	6～9才	10～12才	13～15才	16才以上
1	36	2	0	0	0	0	7	23	6	3	3	21	8	1	0	0	7	21	5	0
2	36	3	0	0	0	0	19	17	0	1	5	24	7	0	0	4	11	20	1	0
3	36	1	0	0	0	1	24	10	1	2	9	18	7	1	1	7	16	11	0	0
4	33	1	0	0	0	10	19	4	0	2	6	20	5	0	1	6	22	2	0	0
5	26	2	0	0	0	5	19	2	0	3	5	13	5	0	2	5	15	1	0	0
6	29	4	0	0	1	14	11	3	0	1	6	20	2	0	4	15	8	1	0	0
7	21	2	0	0	0	10	9	2	0	3	6	9	3	0	4	5	9	0	0	0
8	32	1	0	0	0	26	6	0	0	2	9	17	4	0	9	16	5	0	0	0
9	31	9	0	0	3	20	8	0	0	7	9	12	3	0	9	14	1	0	0	0
10	43	6	0	0	15	23	5	0	0	12	24	6	1	0	22	9	0	0	0	0
11	24	6	0	0	9	12	3	0	0	9	12	3	0	0	12	3	0	0	0	0
12	29	13	1	0	17	10	2	0	0	10	17	2	0	0	18	1	0	0	0	0
13	23	13	0	0	15	8	0	0	0	16	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0
14	7	28	0	0	4	3	0	0	0	6	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
15	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	406	166	1	0	64	142	132	61	7	77	119	165	45	2	90	85	94	56	6	0

図１−１　有配偶者の職業と子供の関係

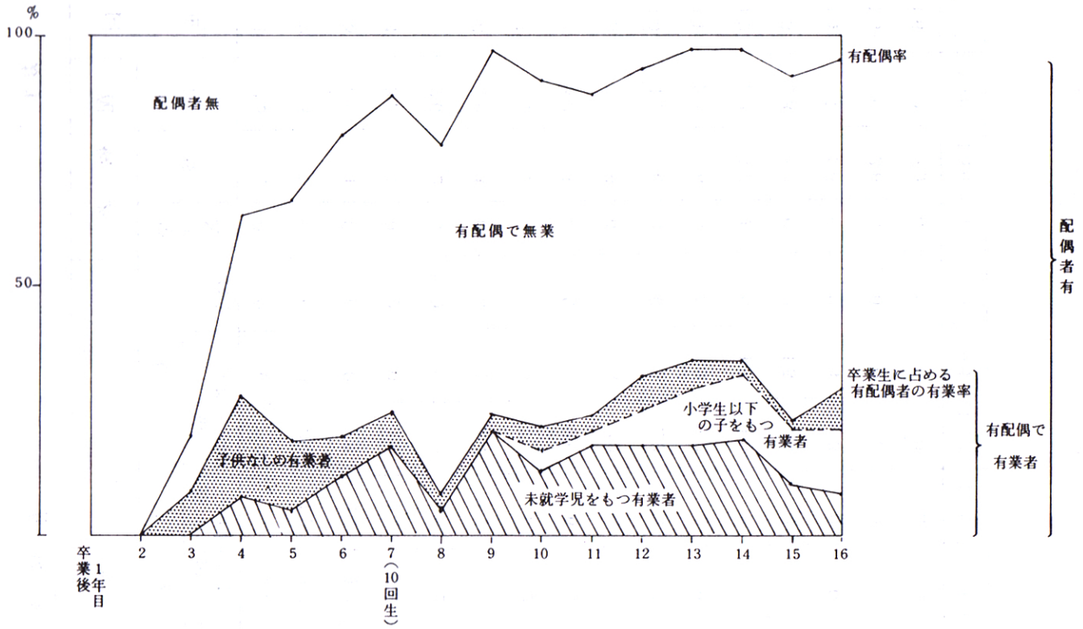
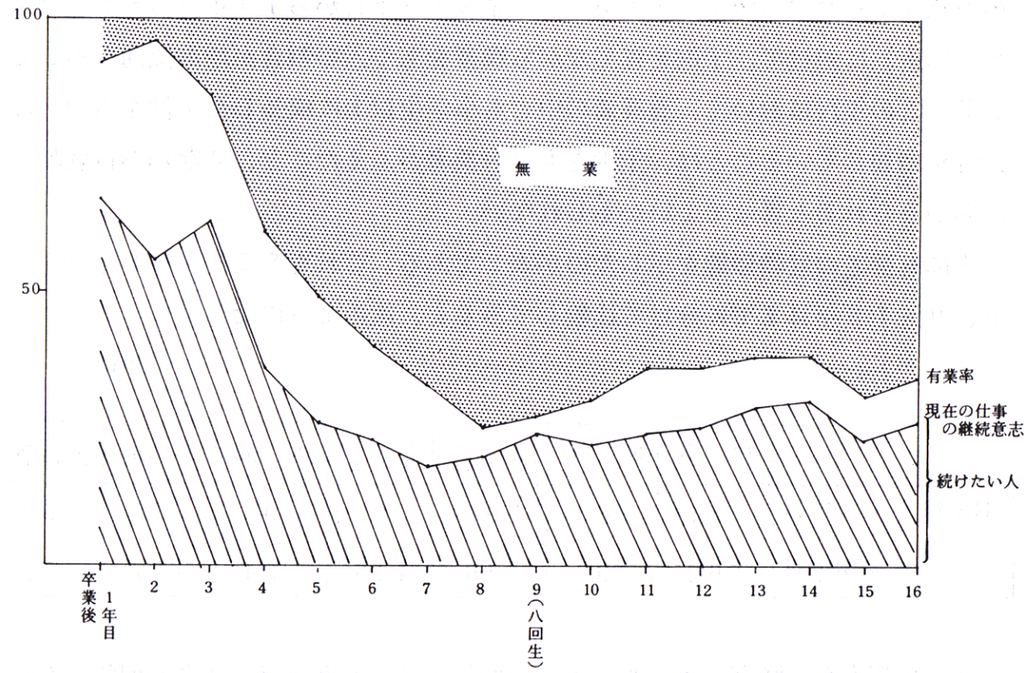


図１−２　有業者とその仕事の継続意志

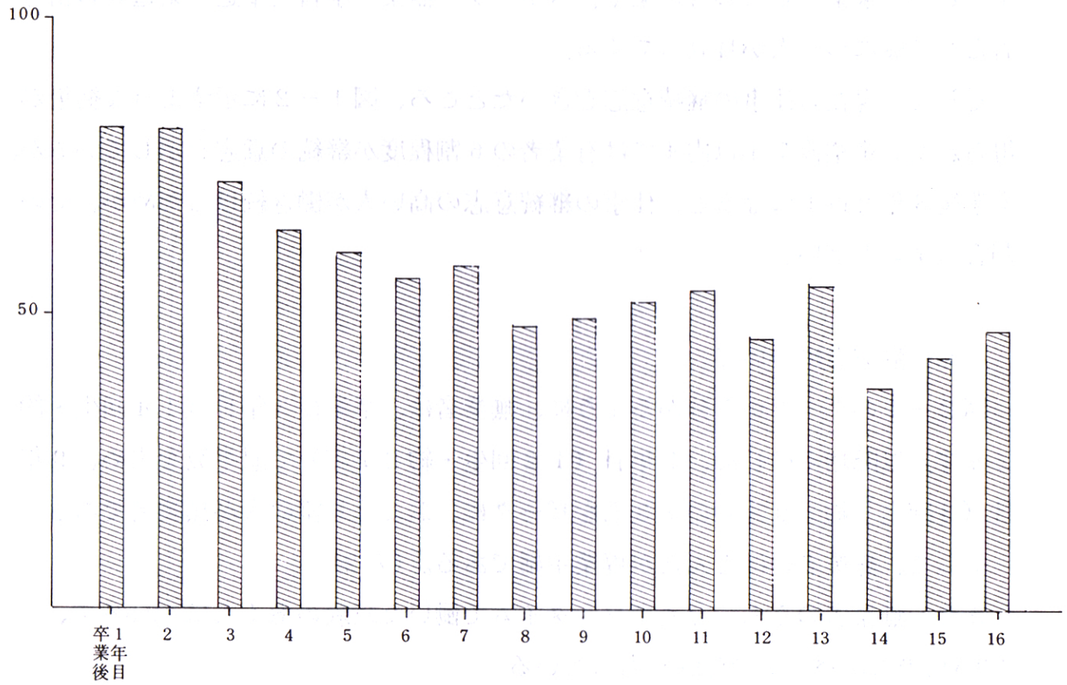


2. 職　業

(1)　有業者について

職業の有無については、卒業後間もない回生の有業率は高いが、卒業後８年目（９回生）までは低下の一途をたどり、１１年目（６回生）以降でやや上昇している（図１−2）のは、結婚、出産の時期に離職する人が多いことを示している。ただし、考慮しなければならないのは、卒業時点での就職率に大きな変化がみられることである。参考までに卒業時での就職率（研究室データー）を示すと（図1−3）、１〜３回生（昭和４３〜４５年卒業）では就職する人は卒業生の半数に至らなかったのが、１２回生では６割に達し、１５・１６回生（昭和５７年・５８年卒業）では８割が職場に進出するようになった。すなわち、この調査を実施した年に卒業した１６回生は、卒業時の就職率が高いので、今後の有業率も過去の卒業生よりも高い割合で推移していくだろうと思われる。なお、卒業後８年目（９回生）の有業率が最も低いが、その原因は、卒業した５１年春は就職難で、卒業時の就職率が低かったということも影響していると思われる。

図１−３　各回生の卒業時の就職率



ところで、卒業生の回生ごとに有配偶者を示した上で、その人たちの職業と子供の有無を示したのが図１－１である。卒業後１０年目から１４年目の卒業生（７～３回生）にかけて、子供を育てながら職業をもつ人の割合が増加傾向を示している。この年代において、有業者の中でも小学生以上に成長した子供をもつ人の割合が増加していることは、子供をもつ有業者がふえたこと、すなわち再就職の傾向がみられると言ってよいかもしれない。

次に有業者の就職形態を示したのが表２である。これを卒業後１～８年目までと、９～１６年目までに分けて比較してみると、次のようになる。

単位 %

	自　営	雇　用	フルタイム	パートタイム	内　職	その他	無回答
卒業後１～８年目	6.3	78.6	70.4	8.2	0.6	3.8	5.7
〃　９～16年目	20.2	59.6	44.9	14.6	3.4	15.7	2.2

卒業後間もない時期にはフルタイムの雇用がほとんどだが、卒業後何年もたつとフルタイムの雇用割合が減少し、自営業やパート、その他の割合が増加する。すなわち、家業としての自営業や、スポーツ・器楽・学習・華道・茶道等の指導者として職につく人が目立ってくる。

そして、現在の仕事の継続意志をきいたところ、図１－２に示すような結果が得られた。卒業後７年以内までは有業者の６割程度が継続の意志を示しているが、卒業後８年目以上になると、仕事の継続意志の高い人が働き続けるためか、その割合はずっと高い。

⑵　無業者について

図２－１のグラフから分かるように、無業者は、卒業後３年目（１４回生・約２４才）以降増えはじめ、５年目（１２回生・約２７才）で過半数を占め、９年目（８回生・約３０才）の７３％をピークに、およそ６割の人が無業者である。

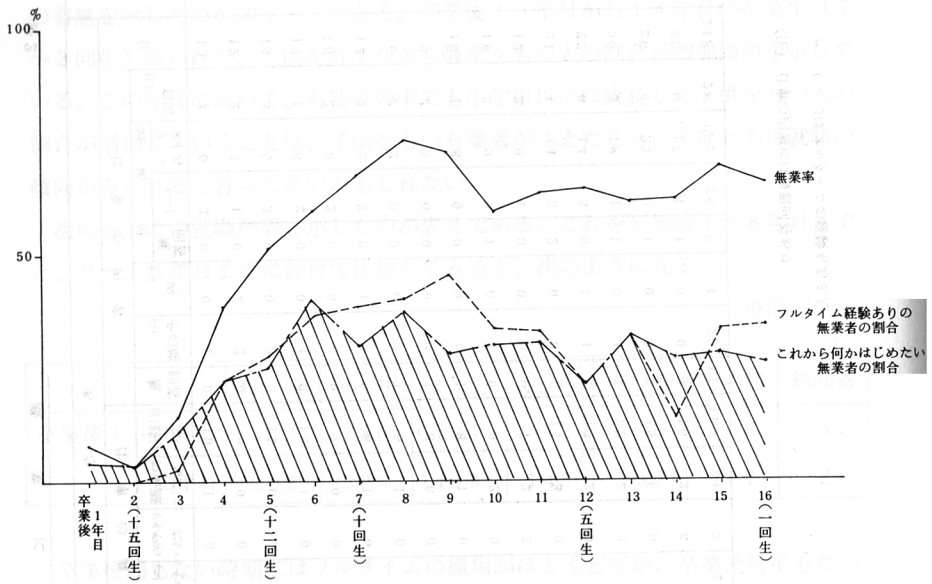
そして、無業者のほとんどが専業主婦である。(表２)

また、無業者のうち、今までフルタイムで働いた経験のある人は49.5％で、13.6％の人がパートの経験をもっている。

表２　職業について

| 回生 | あなたの職業 | | |

図２－１　無業率と無業者の職業経験および「これから何か始めたい」人の割合



「これから何か始めたい」と答えている人の数（図２－１の斜線部分）も無業者全体の約半数（４６.８％）であり、フルタイム経験者の割合とほぼ重なっている。なお、フルタイム経験者の中で「これから何か始めたい」と答えている人の割合は５７％、「いいえ」と答えたのは28.2％。

これに対して、仕事の経験のない人では「これから何か始めたい」が40.4％で、「いいえ」が36.2％である。このことから、仕事の経験のある人の方が、より多く、自分の仕事を持ちたいと思っていることが伺える。

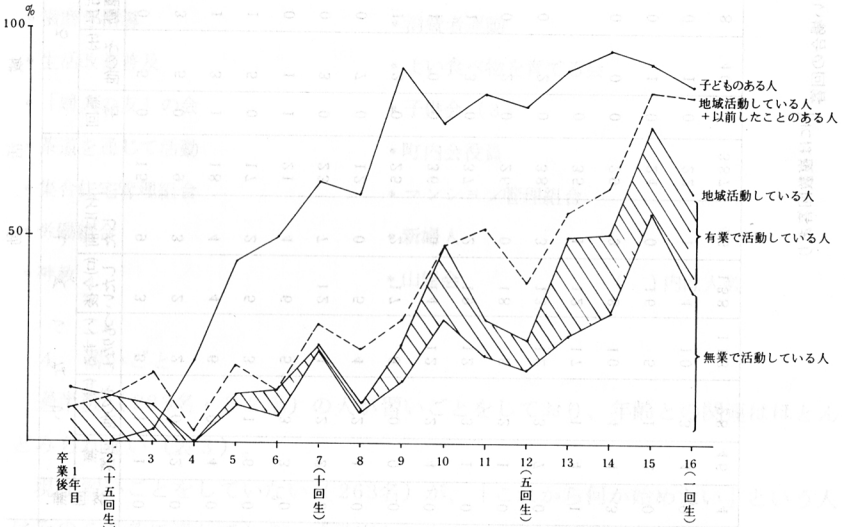
しかし、「いいえ」と答えた人の中にも、「はい」と答えたいが、現実的にいろいろ困難な問題があり、現状では、地域活動や趣味的活動を重視していこうと考えている人達もいると思われる。

参考までに、厚生省が発表した「５８年国民生活実態調査」の結果をみると、三世帯に一人の割合で主婦が勤めに出ているという。年令別では、４０代が約45％、３０代約３５％、５０代３２％で、３０代４０代はパートの割合が高くなっている。また、勤めに出ていない主婦の約３割が「勤めに出たい」と望んでいるが、この数字と比べて、現在専業主婦である卒業生の約半数が職業を持ちたいと思っていることは注目すべきことであろう。

3.　地域活動

地域活動は、「している」と答えた人が全体で28.8％、「していない」が70.5％、無回答者が０.７％である。図３－１のグラフの形からもわかるように、年齢と相関関係がある。そして、この差は、子供の有無、子供の年齢との関係から由来するもののようで、これは、地域活動の内容が、ＰＴＡ・生協活動が大半を占めていることからも裏付けられる。（表３）。

図３－１　地域活動と有子率および職業の有無との関係



奉仕活動、市民活動は、以上の２つに比べて従事者が少なく、職業の有無・子供の有無・年齢いずれとも関係なく活動している。

地域活動のうちでも、ＰＴＡや自治会等の役員は、廻りもちという性格もあるので、「以前活動したことがある」と答えた人を加えた数値の方が、地域活動の実態と言えるのではないだろうか。そうすると、全体では、３７.２％の人が地域活動にかかわってきたことになる。また、「これからしたい」と答えた人を加えると、６５.９％になり、積極的に地域活動を考えていることがわかる。

有業者と無業者で比較してみると、無業者のうち33.7％の人が、有業者のうち22.9％の人が地域活動をしている。

地域活動と習いごとについて

表3

回生	地域活動 している (イ)生協	(ロ)PTA	(ハ)奉仕	(ニ)市民運動	(ホ)その他	無回答	地域活動 していない (イ)以前したい	(ロ)今後したい	(ハ)するつもりなし	(ニ)その他	無回答	無回答	習いごと している	習いごと していない (イ)これから	(ロ)予定なし	(ハ)その他	無回答	無回答
1	6	17	4	0	5	0	9	3	3	1	1	0	23	8	4	2	1	0
2	14	19	2	3	5	0	3	2	2	0	2	0	23	9	5	1	0	1
3	8	12	1	1	3	1	4	4	6	0	4	0	21	11	5	0	0	0
4	8	4	0	1	5	0	2	5	3	1	6	0	16	10	7	0	1	0
5	0	5	0	0	1	1	4	6	5	3	3	0	16	8	2	2	0	0
6	7	4	1	0	3	0	7	12	4	2	2	0	15	18	0	0	0	0
7	8	1	0	0	7	0	0	5	4	2	1	0	11	12	3	2	0	0
8	3	3	1	1	2	0	2	17	8	0	0	0	8	25	5	1	0	0
9	2	1	0	1	0	0	5	14	12	2	4	0	18	21	5	2	1	1
10	7	0	2	1	3	0	2	19	12	3	1	0	20	29	10	1	0	0
11	1	1	0	0	2	0	0	18	5	2	1	0	19	11	4	0	0	0
12	3	1	0	0	2	0	3	13	12	3	7	0	23	19	6	3	0	1
13						0	1	12	17	1	4	1	17	19	13	1	1	0
14	0	0	3	0	0	0	3	8	10	4	4	3	24	11	2	2	2	0
15	1	0	1	0	1	0	24	16	5	1	2	0	19	8	6	1	0	0
16	0	0	1	0	1	0	22	4	10	3	4	0	10	14	12	1	0	0
合計	68	68	16	8	40	2	387	158	118	28	46	4	283	263	171	67	19	6

(注) 地域活動の内容
〃 をしていない場合の回答 } には複数回答あり

その他の地域活動の内容を、有業者、無業者別に分けて列挙してみた。

（有業者）

- 消費者の会
- 商工会婦人部理事
- 食品安全を守る会
- 学童保育（4）
- 子供会
- リサイクル
- 歯磨き指導
- 生活改善普及
- 「婦人の友」の会
- 茶道を通じて活動
- 集合住宅管理組合
- 労働組合
- 神教

（無業者）

- 子供にピアノを教える
- 読書会（2）
- 絵本の会（2）
- 地域の学習会
- 野村生涯教育センター
- 消費者モニター（2）
- 消費者運動
- よい食べ物を育てる会
- 子供会（3）
- 町内会役員
- マンション管理組合
- 新婦人
- 山岸会

（　）内は人数

4. 習いごと

過半数（283名・５２％）の人が習いごとをしており、年齢との関連はほとんどみられない（表３）。

現在習いごとをしていない（263名）が、「これから何か始めたい」という人はその６５％に達しており、「予定なし」という人は２５％である。すなわち、現在はできないが潜在的にはいつか始めたいと思っている人の多いことがわかる。そして、子育ての状況、環境などそれぞれの条件が変わることにより、この数字は流動するものと思われる。

習いごとの内容は非常に多種にわたっており、以下に多い順に列挙してみた。

（文　化）				（スポーツ）
茶　　道(64)	和　　裁(3)	フルート		テニス(34)
生け花(59)	陶　　芸(2)	手　　織		ダンス(15)
書　　道(21)	ヴァイオリン(2)	園　　芸		水　　泳(13)
料　　理(21)	大学の聴講(2)	トレース		体　　操(9)
英会話(17)	声　　楽(2)	簿　　記		卓　　球(5)
手　　芸(14)	ペン　字(2)	インテリア		バトミントン(4)
ピアノ(14)	フラワーデザイン(2)	日　　舞		ゴルフ(4)
編　　物(13)	ドイツ語(2)	音楽一般		ヨーガ(3)
洋　　裁(11)	短　　歌(2)	和文タイプ		スポーツ一般(3)
エレクトーン(7)	木目込人形(2)	中国語		バレエ(2)
絵　　画(6)	カウンセリング			スキー(2)
着　　付(6)	点　　字			乗　　馬
コーラス(5)	水墨画			ダイビング
琴・三絃(5)	単発の講習			合気道
通信教育(4)	読書会			武　　道
皮工芸(3)	組ひも			太極拳
アートフラワー(3)	パンフラワー			
フランス語(3)	ギター			
洋菓子作り(3)	鎌倉彫り			

（　）内は人数
複数回答

5.　自由記入欄への回答

「卒業生の会」に対する要望を求めるため、アンケート調査の最後に、自由記入欄を設け、「学科や卒業生の会に望みたいこと、また何でも結構ですからご自由にお書き下さい」と回答を求めた。回答数は221枚（38.5％）であった。

回答内容は実に様々であったが、会に対する要望も含め、いずれも現在の自分の生活に根ざした切実な生の声であった。

ここでは、それらの回答を下記のように４項目に整理し、回答数の多少にかかわらず、できるだけすべての声を忠実に報告したいと思う。

Ⅰ．「卒業生の会」に望むこと

1.　同窓会、クラス会を開いてほしい

2.　先生、卒業生の近況を知らせてほしい

3.　交流会、情報交換の場を作ってほしい

4.　機関誌の発行を望む

5.　名簿作成を望む

6.　その他

Ⅱ．準備委員会に望むこと

Ⅲ．学科に望むこと

Ⅳ．アンケートを手にして思うこと、近況報告

なお、参考までに回生別、項目別回答者数は下表のとおりである。１名で２項目に該当する回答者もあり、のべ人数扱いとなっている（表５－１）。

表５－１　＜回生別、項目別、回答者数＞

＜回生別，項目別，回答者数＞　　（回生）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
（回答者数）	19	14	14	15	11	11	8	13	17	17	14	11	15	13	17	12	221
1. 卒業生の会に望む																	
1.同窓会，クラス会	1	1	2	4	1	1	2		1	1	5	1			4		24
2.先生，卒業生の状況			1	1	2			2		2	2	4			3	1	18
3.情報交換の場	4		1		1	2			4	2	1	1	3	4	6		29
4.機関紙発行	1	1	1	2	2	5			2	1	1			3	2		21
5.名簿作成	2	1	1				1			1		1				4	11
6.その他	3	3	2	2	1	2	2	4	1	5	2	1	6	1	4	5	44
（小　計）	11	6	8	9	7	10	5	6	8	12	11	8	9	8	19	10	147
2. 準備委員会に望む			1	1		1			1				1	2			7
3. 学科に望む	1	5	4		2		2		1	1		2	1	2		1	22
4. 近況報告	7	3	2	5	3		2	8	7	6	4	2	4	1	1	5	60
合　　計	19	14	15	15	12	11	9	14	17	19	15	12	15	13	20	16	236

前述のような自由記入であったが故に、回答者の声がすべて出しつくしているとはいえず、回生別、項目別回答者数からも、きわだった傾向をとらえることは難しい。しかし、回生初期の回答者は、卒業後の年月の早さを改めて感じたり、子育ては一区切りしつつも、教育、老後、自分の人生に対して悩んだり、社会復帰を具体的に考えたりしている。１０回生を中心とした回答者は、結婚、出産、育児と、人生の転機を迎えるあわただしい時期であり、「とにかく忙しいです」「これでいいのか」「時間ができたらいずれは何かを」という自問自答をしている。また、卒業後１・２年目の１６・１５回生は、職場での近況、疑問を訴えている。

次に、会に対する要望は、単に「会いたい」「懐しい」だけにとどまらず、それぞれが現在ぶつかっている問題点や疑問点について、前向きにとり組み、解決していくために利用できるものをと、切実な願いをこめ、かなり具体的な提案も出された。

項 目 別 内 訳

Ⅰ．「卒業生の会」に望むこと

1. 同窓会、クラス会を開いてほしい（表５－2）

とにかく、卒業生の集いをと望むものである。これは、回答者全員の共通の望みともいえるが、もう少し積極的に別の要望となっているものは、後の項目に分類した。

表５－２

1）同窓会	14
2）クラス会	7
3）地域ごとの会合	2
4）先生方にお会いしたい	1
計	24

- 「何はともあれ一度皆様方にお会いしたいですね。」（１回生）
- 「年のせいか学生時代が懐しく思えてなりません。クラス会でもあれば」（４回生）
- 「これを機会に旧交を暖めたい」（４回生」　等

2. 先生、卒業生の近況を知らせてほしい（表５－3）

卒業生が、どんな生き方をしているのか、また、社会での活躍ぶりを何らかの方法で知ることにより、自分の現在および将来の励みにしたり、参考にしたいと願うもの（１８名）である。

表５－３

1）卒業生の社会での活躍ぶり	8
2）　〃　生き方、近況	8
3）先生方の近況	2
計	18

- 「いかに能率的に無理なく自分の生活を創りあげていけるかが私のテーマです。卒業生の方々がどんなふうに自己を表現していらっしゃるのか知りたい」（８回生）
- 「家事や子育てに専念する毎日で、社会とのかかわりが全くなし、その点でもの足りなく思っている。せっかく家政経済学科で学んだのですから、少しは生かせる地域活動などをいずれしたい。皆さんはどうしているのか知りたい」（１１回生）
- 「同級生、先生方の事について知りたい」（１２回生）　等

3. 交流会・情報交換の場を作ってほしい（表５－4）

前出２項目に較べ、ただ単に「知りたい」ではなく、より積極的に自らが会合に出席し、抱えている問題をぶつけ合い、情報交換することで、お互いの成長に役立てることを望むもの（２９名）である。

表５－４

1）たてのつながりを持てる会	6
2）様々な立場の人と話したい	5
3）　〃　人生経過を語り合いたい	3
4）互いの情報交換の場	4
5）先生の指導を受けるチャンスを	2
6）教師になった方々と話し合いたい	2
7）将来の社会復帰の為の情報を	2
8）その他	5
計	29

- 「卒業して８年、就職、退職、結婚とごく一般的な女性の道を歩んでいます。専業主婦

にスポットをあて、私達のおかれている立場をより客観的に見、これからの新しい女性の生き方について少しでも参考になる意見交換ができる場を」（９回生）

- 「ＰＴＡの友達だけでなく、学友と、人生経過を語り合い、お互いに啓発できる場に」（１回生）
- 「社会に出〝職場での女性〟について考えさせられる事が多い。在学生も交えて、同窓会を開き、学科の発展を望む」（１２回生）

4. 機関誌の発行を望む（表５－５）

提案理由は下記のとおりである（２１名）

表５－５

１）学科の動向を知る為に	5
２）卒業生の　〃	4
３）地域のパイプ役に	3
４）情報交換の場に	3
５）会の活動状況を知る為に	2
６）親睦をはかる為に	2
７）投稿する機会がほしい	1
８）学科独特のものを	1
計	21

- 「自分の生活に追われ、積極的に行動はできないと思いますが、会報等を通して学科の動きを知ることができれば」（２回生）
- 「地方にいる者には、大学自体が遠い存在になっている。定期的に新聞などを発行し、学科の事、卒業生の活躍などを知らせて下さい」（９回生）　等

なお、発行回数については、年に１・２回（２名）、年に３・４回（１名）、定期的に（２名）という提案もあった。

5. 名簿作成を望む（表５－６）

提案理由は下記のとおりである（１１名）

表５－６

１）卒業生の消息が知りたい	3
２）先輩、後輩とつながりをもつ為	3
３）同窓意識を強くし、じようずに活用する為	1
４）同窓会、同期会を開く為	2
５）何かと便利	1
６）同じ地域のどこに住んでいるか知りたい	1
計	11

6. その他（表５－７）

上記以外にも、会に対するさまざまな期待が寄せられた。（４４名）

表５－７

１）勉強会	6
２）生活者の立場から実践的研究会を	4
３）学ぶ場を与えてくれる会に	5
４）有意義な会に	5
５）働く女性の精神的バックアップの場に	4
６）自分を見つみ直す場に	6
７）刺激が与えられる場に	2
８）経済学に関しての講演会・討論会に	2
９）理論と現実のギャップを縮める会に	2
１０）社会科学的なものの見方について学習を	1
１１）力をまとめて何かに役立てては	1
１２）大学との結びつきを希望	1
１３）卒業生以外にも開放の公開講座を	1
１４）地味で質素な会	1
１５）その他	3
計	44

Ⅱ．準備委員会に望むこと

準備委員会に対しては、アンケートの結果報告をすること、今後、自主的運営をし、生活実態調査、意識調査をしてみては等の意見が寄せられた。また、「お手伝いできることがあれば、いつでも連絡を」という心強い発言もあった。

Ⅲ．学科に望むこと（表５－８）

実社会での経験から、必要に迫られて、または、子供から手が離れ、時間的余裕ができたことによって、学生時代の勉強不足を反省しつつ、改めて勉強しなおせたらという願いに基づく発言（２２名）が多かった。

表５－８

1）いつでも大学にもどって勉強できる体制を（公開講座・聴講生）	6
2）最近の研究内容を知りたい	4
3）在学中に実社会で役立つ学習を	3
4）在学中のカリキュラムで資格技術が得られるように（公務員試験、消費生活コンサルタント、保母コース等）	2
5）卒業後でも就職の斡旋を	2
6）法律演習があったら	1
7）社会構造の変化を見る目を育ててほしい	1
8）本学科のカリキュラムがいかに充実しているか在校生に強調して	1
9）その他	2
計	22

最後に、会の発足の件には直接触れていないが、アンケート用紙を受け取った時の感想を卒直につづっているもの、現在の自分の生活を振り返り、反省しているもの、近況報告をしているもの等を掲載しておく。

- 大学生活が現在に影響を与えている
- 少しずつでも何か始めなければと思う
- 日常生活に反省の機会を与えてくれた
- お役に立ちたい
- 学科のますますの発展を
- できるだけ参加したい
- 学んだことを家庭や地域社会に生かしていきたい
- 大学生活は昔の夢の世界
- 学生時代を大切にして下さい
- ２０周年感慨無量です
- 協力できず、すみません
- 学生生活を思い出すきっかけでした

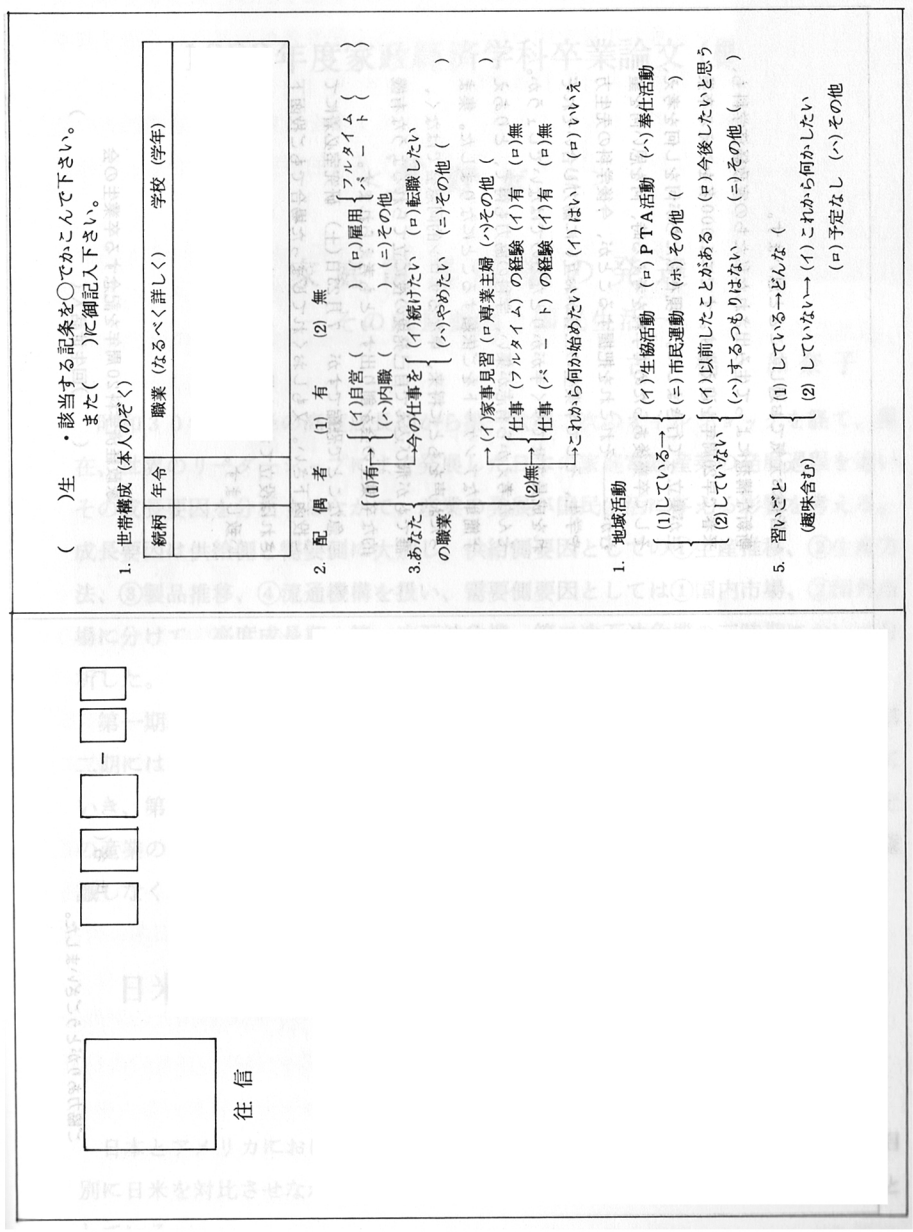
- まだまだ学生でいたかった
- 自分で少しずつ勉強を続け、体力もつけたい
- 大学とのつながりで、助け合っていきたい
- 時間の余裕ができたらいろいろな会に参加したい
- 活躍している人がいると心強い
- 「論叢」で学科の雰囲気を感じている
- 自分で何か技能を持ったら活躍できるのでは
- 毎日忙しいです
- 生きがいのある職場を捜しています
- 社会参加と子育ての重要性を感じる
- 勉強を開始したところです
- 充実した生活をしています
- 子供のしつけに注意を払っている
- 生協に加入したいと思っている
- 早く生きがいを見つけたい
- 働く女性に３年の育児休暇を
- 老後、生きがい、教育問題が切実になってきた
- ３０代の自分を大切にしたい
- かしこい主婦でありたいと思うが
- 付和雷同だけはしないように心がけている
- 一生、経済的に自立できる地盤を築かなければ
- 生活を社会の一部に位置づけていきたい
- ３０才後半、なかなか社会に復帰できない

今回のアンケート調査では、特に家政経済学科の卒業生としての特徴をつかむことが十分できませんでしたが、これからの生き方を模索する姿勢には、世間一般に比べて、より積極的な気持が感じ取れたように思います。
ここで得られたものを足掛かりに、次回はもう少し詳しい意識調査を行なったうえで、それを存在意義のある「卒業生の会」づくりに発展させてゆきたいと考えています。

そのためにも、出来るだけ多くの方々にご協力、ご参加いただきたいと思います。

最後に、報告者の力不足から、満足のゆく結果報告ができなかったことをお詫びし、忌憚のないご意見、ご要望をお寄せ下さることを心よりお願いいたします。

※アンケートの配布・収集については、各回生の世話人の方にご努力いただき、本報告は岩場（1回生）、瀬下（1回生）、村上（3回生）、金子（4回生）、内藤（4回生）、熊谷（6回生）、塚原（6回生）、稲垣（11回生）の責任でとりまとめました。



皆様お元気でお過しのことと思います。
斬新な構想によって生み出された私たちの家政経済学科も、来春で早20周年を迎えます。すでに1,000名をこえる卒業生が巣立って行きました。今現在私たちが何をし何を考え、そして卒業後あらためて学科を考える時、何を思い何を望むか――それこれを把握することが、今後学科の先生方や学生、そして卒業生の三者がお互いに協力し合いそれぞれを成長させてゆく手がかりとなるのではないでしょうか。そんな考えから有志が集い、学科の協力も得て、とりあえず簡単なアンケートをご依頼することになりました。集まったお声をもとに将来、単なるサロン的同窓会ではなく、誰でもが飛び込んで自己発現の役に立てられるような有機的な卒業生の会を創り出すことも考えられます。
急なことで恐縮ですが　7月23日(土) 研究室必着にてご投函下さい。又もしおくれてしまった場合でもご投函下されば役立てたいと思います。ご協力の程、よろしくお願い致します。

家政経済学科20周年を記念する卒業生の会
(　　)回生世話人(　　)

返信

□□-□□
□□□
□□

6. 学科や"卒業生の会"に望みたいこと、その他どんなことでも結構ですからご自由にお書き下さい。

氏名(　　)
ご協力ありがとうございました。

1983年度家政経済学科卒業論文(概要)

〈家政ゼミ〉

家庭電器産業の発達
—その成長要因と国民生活—

古橋　加奈子

昭和30年代以降の高度成長期から第一次第二次のオイルショックを経て、現在、世界のリーダーシップにまで発展した日本の家庭電器産業の発展過程を追い、その成長要因を分析するなかで、産業の発展が国民生活に与える影響を考える。成長要因は供給側と需要側に大別し、供給側要因としての①生産推移、②生産方法、③製品推移、④流通機構を扱い、需要側要因としては①国内市場、②国外市場に分けて、高度成長期、第一次石油危機、第二次石油危機の三時期において分析した。
第一期は大量生産、大量消費のまさに成長期で、国内市場を中心に発展し、第二期には、国内需要の減退により市場を海外に求め、世界のリーダーへと移っていき、第三期、つまり現在は、低成長期をしのいでいる時代である。しかし、その産業の発展と生活の豊かさ、便利さの裏には、数多くの問題点があることを認識しなくてはいけない。

日米の就労意識の違いとその根底における諸状況

堀江　佐知子

日本とアメリカにおける就労意識をアンケート調査によって明らかにし、項目別に日米を対比させながら、意識の違いを決定する状況を追求することを目的としている。

家政経済学論叢　第２０号

1984年４月30日発行

編集兼発行人　倉野精三

発行所　日本女子大学家政経済学会
東京都文京区目白台２－８－１
電話 03－943－３１３１ 内332

印刷所　プリントショップ・サンキュー
東京都墨田区東向島2－14－12
電話 ０３－６１０－３９００